

審査員講評

番号：01	団体名：社会福祉法人 王滝村社会福祉協議会
地域：木曽郡全域	事業名：みんなの木曽『X（かけはし）』プロジェクト
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 木曽郡 6 町村・2.2 万人を対象に、新たなつながりや複数のつながりの創出を目指している点が評価される。➤ 地域を超えた福祉分野の連携によるコンソーシアムの立ち上げは、先進的かつ意義深い取り組みである。➤ 人口減という切実な課題に対して、地域内の関係機関が連携を積み重ねてきたことによる安定感がある。	
<p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 既存のつながりについての定量的なアセスメントがなく、事業の効果測定や説得力に欠ける。➤ 高額なパソコンの必要性や、ランチセッションの目的と方法の妥当性など、個別の施策に対する精査が求められる。➤ 関係機関との連携や仕組みは整いつつあるが、それが具体的にどのような事業として結実するかが見えづらい。	

番号：02	団体名：一般社団法人 Green Project
地域：小谷村	事業名：ローカルウェルビーイングを高め、新たなことにチャレンジする地域活性化事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none">➤ シルバー世代を地域資源と捉え、短期の山村留学を通じた新しい働き方創出に取り組もうとする視点は共感できる。➤ 長年培われた地域の教育力や伝統行事を活かし、世代を越えた地域づくりを志向している点が評価される。➤ 長期ではなく短期留学とした点は、地域の実情を踏まえた現実的な設計である。	
<p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 初年度の活動がアセスメントにとどまっており、事業の進展スピードにやや懸念がある。➤ 地域の高齢者にとっての経済的・健康的効果が具体的に見えず、仮説の妥当性に不明瞭な部分がある。➤ 外部委託への依存が多く、自走力や地域内人材の活用に課題が残る可能性がある。➤ インフルエンサー活用の意図や方法が不明瞭で、発信面での戦略が整理されていない。	

番号：03	団体名：社会福祉法人 山ノ内町社会福祉協議会
地域：山ノ内町	事業名：過疎地域における外国人移住者との共生とコミュニティ強化による地域活性化プロジェクト
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 外国籍住民との共生を目指す取り組みは、先駆的かつ時宜を得たテーマである。 ➤ 「良き隣人同士」として持続可能なまちづくりを目指し、移住者と地元住民の対等な対話に期待が寄せられる。 ➤ コミュニケーションの機会を増やすことで、地域における外国人との共生を促進しようとする姿勢が評価される。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 外国人の年齢層や就労状況に関する把握が不十分で、対策が抽象的にとどまっている。 ➤ 地元住民との具体的な接点をどうつくり、育てていくかが今後の課題である。多文化共生への包括的な展望がほしい。 	

番号：04	団体名：特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎
地域：筑北村	事業名：修那羅の森プロジェクト
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ フリースクール開設やジビエ加工、障がい者リハビリなど複数の実績を土台にした多分野の展開には実現性がある。 ➤ 農業・林業・人を活かし、地域資源による地域活性化と誇りの醸成を目指す姿勢が評価される。 ➤ フリースクール、ジビエ商品、障がい者雇用、ユニバーサルツーリズムなど、包括的な取り組みに期待が寄せられる。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ KPI（成果指標）が明示されておらず、事業の達成度や進捗の評価が困難である。 ➤ 実施内容が多岐にわたるため、マネジメントの複雑化やリソース不足の懸念があり、必要に応じて事業の絞り込みや予算の見直しが求められる。 	

番号：05	団体名：山作L L C 合同会社
地域：富士川町	事業名：里山とまちを地域通貨でつなぐ、幸せ循環プロジェクト
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域内で資源や経済を循環させようとする発想は、地域づくりの新しい試みとして期待が持てる。 ➤ 業者ではなく住民が苗木を育てるという取り組みは、地域参加型の林業モデルとして注目される。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用や参加を通じた子どもの変化や成長について、具体的な変容の見取りが示されていない。 ➤ 薪ボイラーや地域通貨の導入に関して、導入数や運用の実効性、経済効果の仮説が不明確 	

である。

- 地域通貨「どんぐり」が商店街活性化につながるかについて、実現性に疑問がある。
- 備品費が多くを占める中で、継続的な資金調達の見通しや、役員手当の位置づけに懸念が残る。
- 林業後継者の育成に向けた連携体制がどのように構築されるのかが明らかになっていない。

番号：06	団体名：特定非営利活動法人 多摩源流こすげ
地域：小菅村	事業名：共助型交流滞在施設を核とした地域文化・景観への参加と継承の仕組みづくり

● 評価できる点

- 「流域」という枠組みで都市住民を地域維持の担い手と捉える視点は、持続可能な関係人口づくりとして有効である。
- 都市と農山村の長年の交流実績があり、地域づくりの基盤として安定感がある。
- 観光や交流にとどまらず、定住や協力者の増加を目指す姿勢に将来的な展望が感じられる。

● 課題と期待事項

- 法人所在地の表記ミスがあり、基本的な事務管理に課題が見受けられる。
- KPI や現状アセスメントが示されておらず、事業の評価や改善のための仕組みが不足している。
- 地域をどう変えていくのかという具体的な事業提案が不足しており、意図はあるが実行の道筋が不明瞭である。

番号：07	団体名：特定非営利活動法人 みんなの街
地域：北杜市ほか	事業名：北杜リジェネレーション事業

● 評価できる点

- 地域課題を地域資源と捉え、様々な活動を通じて解決しようとする姿勢が評価される。
- 中心となる NPO 法人の取り組みを起点に、地域に変化を生み出そうとする意志が感じられる。

● 課題と期待事項

- 支援対象となる人々の特定が曖昧であり、支援の方向性が不明確である。
- 空き家や空き施設の現状把握がされておらず、資源の有効活用に課題がある。
- 利用者のウェルビーイングがどのように回復・獲得されるのか、その手法やプロセスが示されていない。
- 他の地域主体との連携や展開の見通しが不透明で、持続的な広がりに懸念がある。

番号：08	団体名：GIBIER FACTORY 合同会社
地域：道志村ほか	事業名：ジビエハッピープロジェクト
<p>● 評価できる点</p> <p>➤ 鳥獣被害対策とジビエ活用を通じて地域活性化を図ろうとする取り組みは、地域課題に対する具体的アプローチとして評価できる。</p> <p>➤ 横浜市の水源地という地域特性を生かし、上下流交流に発展させる可能性に期待が持てる。</p> <p>● 課題と期待事項</p> <p>➤ ガバナンスに関する情報開示がなく、運営の透明性に課題がある。</p> <p>➤ ジビエ事業をどのように地域全体の課題と結びつけていくか、住民との意識共有や巻き込みの方法が見えにくい。</p> <p>➤ 地域への具体的な波及効果が不明確であり、持続的な地域振興にどうつながるかが課題である。</p>	